

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291400095		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の杜(サクラユニット)		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706-12		
自己評価作成日	令和5年 2月3日	評価結果市町村受理日	令和5年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

加茂の杜は小高い工業団地の中にあり、比較的静かな環境である。商店街からは離れている為、地域の店から、地域で出来た新鮮な食材を届けて貰っている。施設には広い中庭があり、天気の良い日には散歩に出かけ、気分転換になっている。また利用者同士の交流の場にもなっている。ホール内は季節ごとに壁面装飾で飾り、楽しみながら季節を感じて頂いている。日常生活の中で今まで出来ていた事が少しでも長く続けられるよう、職員と共に支えあいながら暮らして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の自由、主張、笑顔を遮らない様に一人ひとりの残された機能を活かし役割を持って毎日が送れる様に支援している。春の遠足の代わりに園内のランチ、夏の七夕、花火大会、秋のユニット対抗運動会、クリスマスにはツリーを飾り、冬は職員による獅子舞、福笑い、節分には豆まき等行い、コロナ禍でも工夫して各ユニット内で楽しめるように支援している。フェイスブックを初め、QRコードから「いいね」で閲覧出来る様にしている。掃除に使う古布等を地域から貰い、今まで築いてきた地域との繋がりを大事にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議室、玄関に理念の掲示がある。会議等でも理念を確認しながら話し合っている。	理念を掲示し、会議等で確認しながら常に利用者の立場に立って今迄の暮らしが継続して行ける様に実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月のかも郷だより配布にて事業所の様子を発信している。また食材は地域の店から配達された食材で調理を行っている。	自治会や市役所の関係機関に「かも郷だより」を送付し様子を伝えている。食材の購入や行事の時の弁当等を地域の店から購入し顔馴染みの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域の方への発信は出来ていないが、地域からの申込みや入居があり地域に密着した施設としての貢献が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面会議にて運営状況を発信し、意見や感想を頂いている。	利用者の状況や行事の様子を文書で伝えている。事業所の徹底したコロナ感染拡大防止策に対し委員から感想を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から不明な点があれば相談し、スムーズな運営に繋がっている。	手続き等の相談をしたり感染下での面会について助言を受ける等、協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在対象者はないが、身体拘束廃止委員会があり、定期的に検討を行っている。	「言葉の言い換え表」を掲示し、スピーチロックや自分がされて嫌な事をしない様に心がけている。会議や研修などで話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の研修にて学んでいる。また会議でもケアや対応について振り返りを行い、虐待防止に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度の利用はないが、年1回の研修にて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、主任にて説明を行い理解を深めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されている。利用者やご家族からの意見があれば検討し、運営に反映させている。	たよりに利用者の写真を添えて様子を知らせ意見を聞いている。家族からは感謝の言葉が多い。利用者本位の支援に努め、家族と意見が違う場合は説明し理解を求めることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談にて意見を聞き、反映させている。	日頃から気づきや疑問なことを話し合える環境があり、管理者は職員に細やかに声掛けをし意見を聞いている。提案や意見は話し合いサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場となる様、常に環境や条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を見極め適切な研修が受けられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	書面やオンラインでの交流に出来る限り参加している。サービスの質向上の参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の調査にて情報を得、不安や要望に応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の調査時、入居時にご家族の不安や要望に耳を傾け、信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような支援が必要かを見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に家事仕事など一緒にする事で、ともに支えあって生活している。利用者の生活を自分の事として捉え、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月のお便りや電話で生活の様子や体調などを伝え、一緒に支えあう関係を築いている。家での習慣を継続できる様、協力して頂いている方もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越し面会、ZOOMでの面会を行っている。馴染みの方と手紙を交わしたり、電話するなど、関係が継続できるような支援をしている。	今迄の関係が途切れない様に「かも郷だより」で利用者の様子を家族、友人にも伝えていく。電話や窓越し面会、Zoom面会も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮し、日常的に会話できる環境に努めている。また居室に招きお茶会される方があり、準備や片付けなどの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やご様子から、利用者の意向や要望確認を行い、毎月の会議にて検討し、プランに反映している。	日頃から職員同士で利用者の思いについて感じ取った事を報告し合っている。様子を見て配偶者に会える様に誘ったり、抹茶立て等、思いを把握し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や、日々生活の中での言葉を受け止め、今までの生活が出来る限り継続できる様、努めている。出来る事、出来ない事、興味のある事を評価し、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のカルテ記録にて現状把握を行い、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議にてモニタリングやカンファレンスを行い、利用者やご家族の気持ちを反映したプラン作成に努めている。	利用者、家族の意見を聞き趣味や習慣が継続出来る様に介護計画を作成している。毎月心身の変化をカンファレンスで話し合い次の計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録用紙にプランを記載し、職員間で共有している。評価を集計しプランの検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策の為、実施していないが、季節には地域への花見ドライブなど行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診や往診を受けている。日頃より報告や相談を行い、適切な医療を受けられており、また事業所との関係性もできている。	今迄と同じかかりつけ医や協力医の受診をしている。状況に応じて専門医受診をする等柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察を行い、施設の看護師や訪問看護師に報告相談を行い、適切な受診や看護に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携シートにて情報共有し、安心して治療が受けられるよう努めている。入院中のご様子を尋ねながら早期退院となる様働きかけている。退院前カンファレンスに参加し、退院後のスムーズな生活に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りとなったケースはないが、個人の段階に応じて話し合いを行っている。	重度化、状況変化に合わせて主治医、看護師等関係者と連絡を密にとり、事業所で出来る事を伝え方針を共有して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を年1回行っているが現在コロナ禍にて実施できていない。毎月の合同会議にて急変時のシュミレーションや酸素の使用方法など繰り返し学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設は地域の避難所となっている為、風水害の訓練は行っていない。火災時の訓練は年2回行っている。消防署の立会いもあり、評価を受けている。	利用者参加で訓練を行い、職場会議で災害マニュアルの確認やシュミレーションを行っている。週1回コンセント、フィルター等の点検を行い、備蓄品の確認もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時、訪室時やホールでの声のかけ方などプライバシーに配慮した声掛けに努めている。また声のトーンにも気を付けている。	利用者の自己決定を尊重し選択肢のある言葉掛けをしている。声の大きさにも気を付け近づいて話しかけたり、入室時はノックする等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いをくみ取っている。利用者の思いや希望を尊重し、選択出来る事は、選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが、思い思いの時間や場所で過ごせるよう、気持ちに沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧の習慣や衣服の選択など、その人らしさを尊重し、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューを伝えている。食事の盛り付け、食材切り、片付けなど、共に行っている。感染予防対策の為、一緒に食事を摂る事は出来ていない。	旬の食材を使い、行事や誕生日には好物を取り入れ食事が楽しみになる様にしている。出来る人は盛り付けや片付け等一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事形態と量にて提供し、常に評価、改善を行っている。食事量が少ない方には補助食品を提供し補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応じて介助を行っている。異常があれば歯科医師へ連絡し、往診に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表にてパターンを把握し、声掛けまたは介助を行っている。出来る限りパット等の汚染を軽減できるよう支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンに合わせてなるべくトイレで排泄出来る様に支援している。パット使用が軽減する様に声を掛けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて把握を行っている。自然排便となる様、水分補給や、乳製品の提供を行っている。便秘傾向が見られれば緩下剤使用にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、ご様子で変更するなど柔軟に対応している。	入浴日は決めているが、気が進まない場合は日にちを変えたり時間を変え利用者に合わせて柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で趣味活動する方もあり、思い思いに過ごせる環境となっている。良眠に繋がる様、日中の活動の働きかけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携シート、医療カルテにて内服の確認を行っている。内服の変更時はカルテに記載したり申し伝え、周知に努めている。服薬後の様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴から得意な事、出来る事、したいことを把握し、役割を持った生活が楽しみや気分転換となる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を行いながらドライブなどを行っている。天候の良い日は出来るだけ中庭への散歩を行い、戸外へ出る機会を作っている。ご家族との受診外出は日常的にある。	季節を肌で感じられる様に中庭を散歩したり、空港や利用者の希望する懐かしい所にドライブする等出かける機会を作っている。受診時に家族と出掛ける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいは事務所にて預かり、施錠して管理している。自分で所持し管理している方もあるが、希望があれば職員が変わって購入支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話にて日常的に家族と話される方がある。知人や家族からの電話を取次ぎ交流に繋がっている。また自ら電話の希望や手紙の投函希望などあり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に作った壁面装飾を飾り、季節を感じて貰っている。音や室温など不快に感じる事が無い様配慮している。	利用者と一緒に作った四季折々の壁画や習字等を飾り、落ち着いて思い思いの場所で過ごせる様に環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に配慮し、テーブル席の検討を行っている。ホールのソファを利用し交流される事もある。一人ひとりが好きな場所で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自宅で使用していた家具や道具を持ち込んで頂き、より自宅に近い環境に配慮している。居心地の良い環境で過ごせるよう支援している。	編み物等の手芸道具や塗り絵、書、布団カバー等馴染みの物を持ち込み、その人が慈しんで来たものと共に過ごせる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレの表示等、出来る限り自立した生活が出来るよう支援している。		